

教育・啓蒙著作賞

寺本潔・澤達大 編著

『観光教育への招待—社会科から地域人材育成まで』

(ミネルヴァ書房 2016年4月)

<講評>

通常、「観光教育」という用語から連想されるのは、観光産業における人材育成であり、専門学校や大学における観光教育であろう。しかし、本書は小中高における観光教育を意図している点で特徴が際立っている。編者は「いま、なぜ観光の教育が必要なのか」と題するプロローグのなかで、観光は楽しく学べるので、観光に関する教育は前向きな明るさや積極性を与える効果があること、異文化や自文化への理解が進むこと、そして画像や地図の判読能力などの学習技能や分析・企画立案などの実学的能力を学ぶことにも貢献するとしている。本書はまさに、そうした学習効果を実現すべく、執筆者達が実際の小中高の教育現場において試みてきた実践事例が詳しく紹介されている。加えて、本書は観光に関する教育を提唱するのみならず、むしろ観光を切り口に地元の歴史や地域資源を考えたり、より広範な課題として「持続可能な社会の構築」を考えたりなど、観光を通じて社会のあり方そのものについての思考を促す内容となっている点も評価できる。

よって、本書は観光教育に関して新たな基軸を提供し、小中高レベルでの観光教育の導入を啓蒙する類をみない著作となっており、「教育・啓蒙著作賞」に該当する著作であると判断する。